

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	English F		
英文授業科目名	English F		
開講年度	2005年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I		
開講学科・専攻	量子・物質工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1-714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nishimur@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
1年次に身につけた学力を基にして、さらなる読解力向上のための訓練を行ない、英語による自己表現が可能となる素地を作る。この授業ではテープなどを用いて聴解力を養成する練習も行なう。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
English A,B,C,D

【教科書等】
Kay Hetherly著 American Pie (NHK出版) 日常的な話題をもとに日米の文化やものの見方の違いを論じたエッセイ。 ケイ・ヘザリー共著 What's New? 1 (DHC出版) NHK「英会話」で放送された身近な話題にかんする約1分のスピーチ集。

電気通信大学 平成17年度シラバス

【授業内容とその進め方】

(注意：この授業は前期と密接に関連するので、前期と続けて履修するのが望ましい)

具体的な目的は、読解力の向上を図るために「文章構造の理解」と「文脈の把握」ができるようにすることである。授業では1年次までに習った基礎知識をテキストのエッセイに応用して、段落ごとの内容をつかんでいく。テキストは20課構成で、各課を1回の授業で扱う。毎週の授業では内容把握を主眼にして、約4頁の英文を読む予定。

サブテキストでは音声によるショートトークの内容把握を試みる。また、平易な英語による自己表現に必要な語法を身につける。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法

- (1) 期末試験(受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件)
- (2) 出席状況(妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をする)
- (3) 授業中の態度や、発表の仕方

さらに、臨時に小テストする場合がある

評価基準・以下の2つの基準に基づく。

(大学作成)

100～90点は秀、89～80点は優、79～70点は良、69～60点は可、60点未満は不可。

平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に入れられるので注意すること。

(英語教室作成)

合格者の20(+/-10)%は秀と優、合格者の40(+/-10)%は良、合格者の40(+/-)%は可、それ以外は不可。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話やメールなどで事前に予約を取ること。

【学生へのメッセージ】

1. 英語に触れる時間を生活の一部に組み込むことが肝要です。
2. 実用的な音声面の英語学習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧めです。

【その他】

1. 授業ではノートを使いましょう。
テキストに書き込むのは手軽のようですが、学習に役立つ手作業としての効果は薄いです。
2. 教室での座席は、各自が選んだあと毎回同じ席を使います。

3 . 各学期に「実力診断」をする予定です。